

文字情報保障の質向上への取り組み

利用者にとっての使いやすさの向上、情報保障者の技術の向上、入力者にとっての使いやすさの向上などの観点から、総合的に情報保障の質を向上させる取り組みを行っています。

自由参加型遠隔練習会の開催

問題：

支援者の増加→スキルのばらつき
練習機会の不足

取り組み：

captiOnline と Skype を併用した遠隔学習会
入力連携=captiOnline
音声でのやり取り=Skype

メリット：

遠隔地の支援者も時間さえ合えば参加が可能
会場確保の手間が不要

PW を共有することで誰でも参加可能

残る課題：

参加者のレベルの事前確認が必要

練習用資料の事前共有

参加者のスキルレベルを事前に把握する



情報量に基づいたシンプルな評価基準の検討

問題：

打鍵数や入力文字数だけでは
必ずしも情報保障の質を評価できない
質の向上につながる指標の必要性
支援者のモチベーション維持

取り組み：情報量による評価基準の検討

主語と述語、セットで表現できたかどうか、
どちらかが落とされると情報量が大幅に減る

情報取得率の比較:			
主語	述語	入力者 A 主 述	入力者 B 主 述
地理学は	役に立つ	× ○	○ ○
横火や地震はなぜ起こるのかは	極端な時間だけでも	○ △	○ ○
GPS や地図サービスも	地理学のひとつ	○ ×	○ ○
(地理学は) ※省略	実生活に役立っている	- △	○ ○
地理学がないと (生活が) ※省略	不便になる	- ×	○ ○
情報取得率		1/5 (20%)	5/5 (100%)

評価シート例：

主語と述語のセットが拾えていたかをチェック

透過型字幕ビューアアプリの開発

問題：

文字情報保障を読むためには、視線移動
(負担) が多い

字幕を読んでいる間に実験が進行する

実験を見ていると字幕を見逃す

メガネ型ディスプレイは高い

取り組み：

カメラ映像を表示しつつ

字幕を同時に表示するアプリ作成

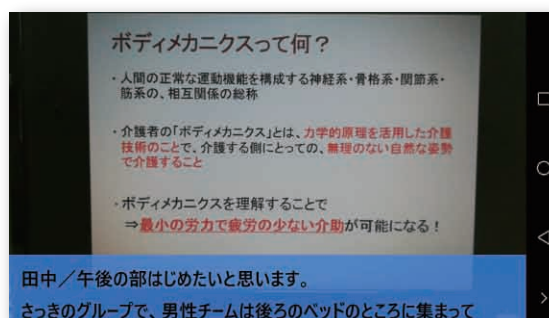
メリット：

情報保障利用時の負担軽減

Wi-Fi に接続してアプリを立ち上げるだけで
利用可能

課題：

映像が荒いと遠くの様子は見えづらい
タブレットスタンド等がないと
表示機器の保持が負担



画面例：上部はカメラで撮影した映像
下部は IPTalk や mekiku から送信した字幕を表示

ゆに
とは

“ゆに”は障害学生支援の「何でも屋」です。名前には、大学で (University) 誰もが (Universal) 同じように学べるようにするためのユニーク (Unique) な組織 (Unity) といった意味がこめられています。代表の佐藤 (筋ジストロフィ当事者) や周囲のサポーターの障害学生支援の経験から生まれました。大学間でのサポーターの共有やサポーター養成、大学からの相談、障害学生からの相談受付、自宅生活の支援、支援に関する調査など広く活動を行っています。

問い合わせ先

〒603-8354 京都府京都市北区等持院西町 60-10

特定非営利活動法人 ゆに 事務局 障がい学生支援担当 TEL: 075-468-1633 FAX: 075-468-1666

Mail: info@unikyoto.com Web: http://www.unikyoto.com/ Twitter: @unikyoto fb: unikyoto